

測定の結果

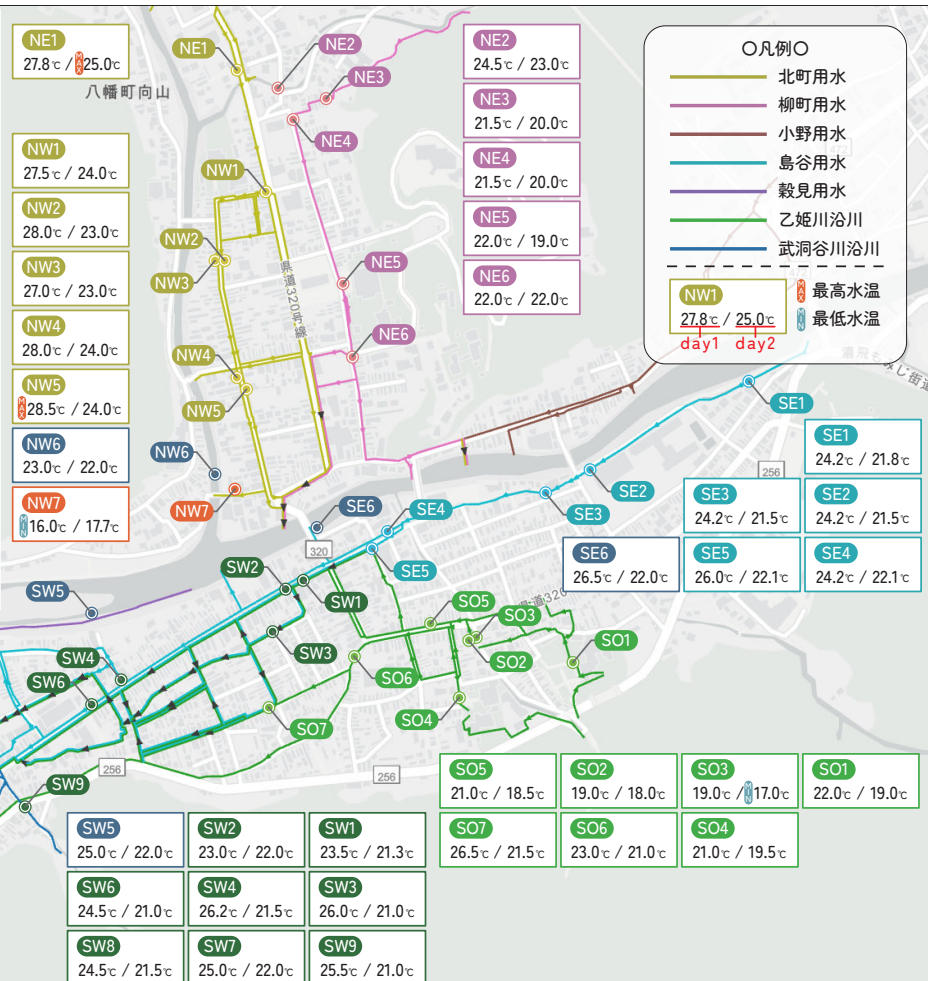
地図に示すように、まちなかの用水は取水源が異なり、その違いが水温にも表れていました。測定した日は猛暑でしたが、周囲の環境を反映しながらもかなり冷たい水がまちなかを流れていることがわかりました。

■ 取水源による水温の違い

同じ北町でも、小駄良川から取水する北町用水は、初音谷からくる柳町用水よりもかなり高い水温でした。乙姫川の水が流れる箇所水温は低く、湧水である宗祇水は、さらに冷たいということがわかりました。

■ 時間帯による水温の変化

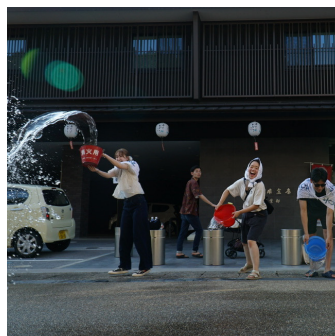
気温が高い1日目午後と、夜をへた2日目午前では、平均3℃、最大で5℃水温が低下していました。



打ち水

1日目の17時から、本町、今町、新町、橋本町では打ち水を行いました。

水コレポスターをまとった学生の声かけを合図に、まちのみなさんが一斉に水をまき、八幡ならではの風景が出現しました。路面からの輻射熱が減って、暑さ指数でも体感としても涼しくなりました。



「水のまち郡上八幡」というけれども、その水のことを具体的に知らない人も増えているのでは？
 そうした疑問から企画した「水コレ」。

測定に参加した人も、測定や打ち水の風景を見た人も、郡上八幡の水の見方が一歩深まったと思います。
 改めて見えた八幡の水の個性と価値を今後も大切にしていきたいです。